

咸新小学校だより

全国学調分析版

4月17日に6年生を対象に実施された、「全国学力・学習状況調査」の結果とその分析から見てきた咸新小学校児童の特徴についてお知らせします。これらの結果をもとに学校全体で指導法改善に取り組み、学力のさらなる向上を目指していきます。

1 教科に関する結果から

《国語》について

【正答率の高かったところ】

- ◎「活用」に関するB問題は、国や県よりも上回る問題が多くありました。
- ◎「書く」ことについてはよくできていました。
- ☆事例を挙げながらの話し方を問う問題
- ☆漢字を文の中で正しく使う問題

【できていた問題】Q

3	2	1	ア	号最同	調理場には、生地を練る機械などせい造に必要な設備がある。
道	新	せい	でも	漢字	
具	せい	限	適	を使	
箱	品	時	切	って	
の中	の	間	な	書	A. 2
を	価	に	ま	く	
せ	格	気	し	文	
い	を	を	よ	と	
理	調	つ	う	し	記
す	べ	選	つ	て	
る	ん	選	て		
		で	ん	て	

【課題】

- 「読むこと」に関わる問題は県の正答率を下回るものがありました。
- ★登場人物の心情について情景描写を基に読み取る問題
- ★話し手の意図を捉えて、自分の意見と比べて、考えをまとめる問題

【対策】

各学年の読み物教材を丁寧に指導していきます。登場人物の心情を読み取る際、その根拠を情景描写から読み取らせます。

読書活動を推進し、様々な優れた情景描写に出会わせ、言葉から情景をイメージする力をつけていきます。

文章を読み取る際、自分の考えと比べながら読ませていきます。

《算数》について

【正答率の高かったところ】

- ◎「知識」を問うA問題、「活用」に関するB問題ともに国、県の結果を上回る問題が多くありました。
- ☆数量の関係を数直線上で考える問題
- ☆分度器で180度より大きい角度を測る問題
- ☆図形の形の名前を答える問題
- ☆ $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ

【できていた問題】 A. 2. 4

Q	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を下の1から4までの中からすべてを選んでその番号を書きましよう。
1	1 mの重さが 12kg の鉄の棒があります。この棒 0.8 mの重さは何kgですか。
2	0.8 Lで板を 12 m ² ぬることができるペンキがあります。このペンキ 1 Lでは板を何m ² ぬることができますか。
3	赤いテープの長さは 12 cmです。白いテープの長さは赤いテープの長さの 0.8 倍です。白いテープの長さは何cmですか。
4	長さ 12 mのリボンを 0.8 mずつ切っていきます。0.8 mのリボンは何本できますか。

【課題】

- 数量関係領域の正答率がやや低かったです。
- ★1 m²あたりの混み具合を問う問題
- ★示された事柄が当てはまるグラフを選ぶ問題
- ★人数の棒グラフと人数の割合のグラフ両方を見て考察する問題
- ★示された数量を関連づけ根拠を明確にして記述する問題

【対策】

グラフの特徴を理解させ、それらが複数ある場合の考察の仕方を学ばせます。社会科や総合的な学習の中でグラフの読み取りや、数値を使いながら考察する経験を重ねていきます。

単位量あたりや割合では、低学年から系統的な学習の積み上げが大切であり、それぞれの学年で系統性を把握し、つながりある学習を行っていきます。

《理科》について

【正答率の高かったところ】

- ◎全体としての平均正答率は、県、全国を上回りました。
- ☆川の流れや雲の様子など「自然現象」を問う問題
- ☆実験の結果を予想し見通しを立てて解く問題
- ☆複数の情報を関連付けながら分析して考察する問題

【できていた問題】

かつやさんは、学校の屋上で空を観察しました。
 近くを流れる川の上流のほうに大雨をふらすような大きな雲があることに気づき、このあとの川の水位がどうなるかを考えることにしました。
 下の表は、かつやさんの学校から見える川の上流の方の空を見た様子と、雨の降っているところを示す気象レーダー川の水位を表したものです。川の水位についてどのようなことがいえますか。 表略

①上流で雨が降り始めると同時に水位は高くなる。
②上流で雨が降って1～2時間たってから水位は高くなる。
③上流で雨がやんでも水位は1～2時間では変わらない。
④上流で雨やむと同時に、水位は元にもどる。

【課題】

- 実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述する問題の正答率が低かったです。
- ★物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことに関する問題
- ★実験の技能に関する問題
- ★キーワードを使って記述する問題

【対策】

普段の授業から、理科用語を押さえながら実験結果や考察をまとめさせていきます。

日頃の授業で主体的に実験に関わらせ、適切な操作方法を身につけながら理解をさせていきます。

理科の学びが楽しみになるよう、疑問を持たせ課題を解決させながら、探求心を育てる授業作りに力を入れていきます。

2 質問紙から見たこと

【良好であった点】

- ◎「いじめはどんなことがあってもやってはいけない」「毎朝朝食を食べる」「家で学校の子習復習をしている」「地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会がある」と多くの児童が答えていました。

「心のアンケート調査」「中池見での体験学習」年数回の「生活チェック」などの取り組みの成果が上がっています。今後も地域・保護者の皆様の協力をお願いします。

- ◎「算数で新しい問題に出会った時それをやってみたいと思う」や「算数の問題の解き方がわからないときに、あきらめずにいろいろな方法を考える」ことができていました。

自分で考えようとする学びに向かう力と態度が身についています。この力は、どの学びにも活かされるこれからの社会に必要な力です。認めながらのばしていきます。

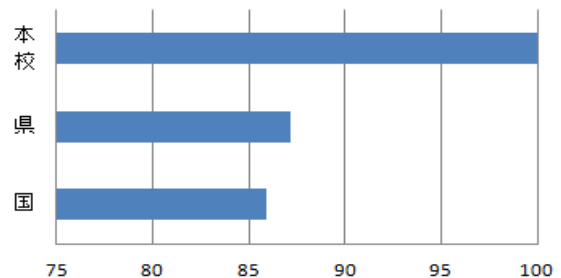
【課題となる点】

- 「家の人と学校での出来事を話す」と答えた児童の割合がやや少なかったです。

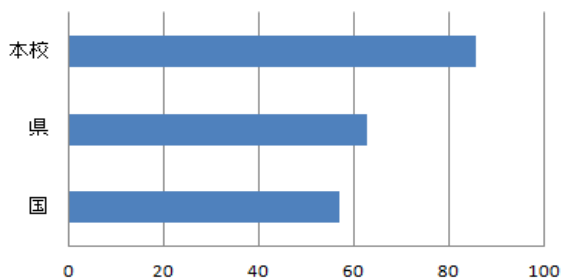
お家の人との会話を増やすために学校・学級だより、HPを通して話題や情報が提供できるように努めます。

■ 当てはまる

いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか。



算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか。



家の人と学校のできごとについて話をしますか。

